

JSCA指導者検定会 シットオントップカヤック ベーシック報告書

報告者 青木勇

報告日 6月28日

| | | | |
|--------------------|------|------------------------|------------------------|
| 検定会場 | | 和歌山県湯浅会場 | |
| 開催日 | 知識課目 | 2020年6月27日 | |
| | 技術課目 | 2020年6月28日 | |
| 検定会場 | 知識課目 | すはらシーサイドハウス（和歌山県湯浅町栖原） | |
| | 技術課目 | 栖原海岸（和歌山県湯浅町栖原） | |
| 主管 | | JSCA公認スクール | リバーアドベンチャークラブ |
| 種目 | | シーカヤック | シットオントップカヤック |
| 担当検定員（チーフ） （第2） | | 青木勇 | 資格 資格 ベーシック検定員 |
| アシスタント | | 西垣久仁彦 | 資格 SUPベーシックインストラクター |
| デモ | | 青木勇 | 資格 ベーシック検定員 |
| 研修参加者 | | | 資格 資格 資格 資格 |
| 受験者数 | | 4名 | SK1名、SOT3名 |
| 単位取得者数 | | 4名 | SK1名、SOT3名 |

| | | |
|----------|------------|---|
| 天候等自然条件 | | 晴れ曇り、風速3m/秒 |
| 安全技術実施内容 | 艇種の特徴に関して | <ul style="list-style-type: none"> ・SKとSOT艇のバランス、回転時の特性の違いを説明 ・艇（SK.SOT）の特徴の説明、SKの波に対する安定性、SOTの安定性と操作性の良さ、長距離には不向き等の説明 |
| | レスキュー | <p>アシストレスキュー：全員が落水とサポートをしての再乗艇を交互に繰り返し練習</p> <p>セルフレスキュー：SKはパドルフロートを使つての再乗艇。SOTは艇横より再乗艇の練習</p> <p>艇の牽引は交互にカウテールを使い練習</p> |
| | 活動フィールドの考察 | <ul style="list-style-type: none"> ・リスクの洗い出し：SKは湯浅湾、SOTは天橋立とフィールドが違うのでSRPテキスト内で説明と受講生による洗い出しを実施 ・リスクへの対策：SK、SOTそれぞれの受講生の活動フィールドにおいてのリスクの洗い出しをした |
| その他特記事項 | | <p>知識課目 / 総論 JSCAのインストラクターとしての活動を、詳しく説明。特に協会に入る意義と保険、運航規程など公認校登録の重要性と活動範囲を説明した。・安全 低体温症の予防などは具体例を挙げ説明。リスクについて運航規程と教材に沿って説明したのでよく理解してくれた。・基礎 シットオントップの特性について艇の材質、一人艇と二人艇の構造と性質。ヘルメット、PDF、道具としてのウエアなどギアの重要性を伝えた。漕艇技術 / 検定前に練習時間を設けた。今回はシーカヤックとシットオンの2種目の技術検定を行う。SKの傾けてのスピンの等艇種によって漕ぎ方が変わるがコンビネーション、スピンそれぞれの基本的な漕ぎ方を採点した。特にキャッチの重要性、インストラクターとしての基本と漕ぎ方を伝えた。ベーシック検定の基準は満たした。指導技術 / 全員が指導経験があり、参加者により指導の方法を変えるなど、その事例を交えしっかりと取り組んで頂いた。また、他人の指導方法を見たことがないので自己流にならない様、模擬講習に沿って基本を守るよう指導した。</p> |